

令和8年度第3回 感染症発生動向調査協議会

令和8年6月17日

月番：澤田 明

1 前月の感染症発生動向について（2026年第19週～22週・5月）

<全数把握対象疾患>

- 一類感染症の報告はなかった。
- 結核は26例あり、毎週コンスタントに報告された（前年比：91.6%，前前年比：89.3%）。高齢者および若年層の2峰性分布ではあるが、20-90歳以上の各年代層で認められた。
- 三類感染症の報告はなかった。
- 四類感染症の報告は、E型肝炎1例、レジオネラ症3例（前年比：54.2%，前前年比：185.7%）であった。
- 五類感染症
 - ✓ カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症2例，急性脳炎1例，劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例，後天性免疫不全症候群2例，侵襲性インフルエンザ菌感染症1例，侵襲性肺炎球菌感染症7例，水痘1例，播種性クリプトコッカス症1例の報告があった。
 - ✓ 梅毒は8例報告された（前年比：72.0%，前前年比：105.4%）。

<定点把握対象疾患>

- 前月と比較し増加傾向にある疾患
 - ✓ 咽頭結膜熱（前月比：279.2%）——ただし総数は少ない
 - ✓ 手足口病（前月比：239.3%）——ただし総数は少ない
 - ✓ 伝染性紅斑（前月比：235.7%）——ただし総数は少ない
- 前月と比較し減少傾向にある疾患
 - ✓ インフルエンザ（前月比：10.7%）
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症（前月比：52.0%）

2 検討すべき課題

特にありません。

3 情報提供すべき事項

特にありません。

4 情報提供（月番委員専門分野から）

特にありません。

<検討結果>